

日本社会情報学会通信

Vol.18 No.3 2003.9.25

日本社会情報学会

〒154-0001 東京都世田谷区池尻 2-31-24 信田ビル

TEL 03-3795-8511 FAX 03-3795-9911

E-mail jasi@jade.dti.ne.jp

U R L <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jasi/>

* 本学会通信の掲載内容は、HPに掲載。

第18回全国大会開催のご案内

第18回全国大会実行委員会
委員長 河西 宏之(東京工科大学)

本学会の第18回全国大会を、下記の通り開催いたします。

開催内容については、既にお手元にお送りしてあります「第18回全国大会プログラム」の通りでございます。会員の皆様におかれては、学・官・産・各界の方々をお誘い合せうえ、多数のご参加を賜りますようお願い申し上げます。

統一テーマ

『メディアが結ぶ安心・信頼社会』

[開催期日] 平成15年10月10日(金) 10:00~19:00 (受付開始 9:30)
* 会員総会・表彰式 16:10~17:00
* 懇親会 17:10~19:00

平成15年10月11日(土) 10:00~19:00 (受付開始 9:30)

[会場] 東京工科大学

* 最寄り駅 横浜線 八王子みなみ野駅(スクールバス 東京工科大学)

[大会事務局] 東京工科大学 庶務課 〒192-0982 東京都八王子市片倉町1404-1
TEL 0426-37-2111 FAX 0426-37-2112

[参加費と懇親会費]

区分		参加費	懇親会費
会員	事前振替申込	5,000円	3,000円
	当日受付	6,000円	3,500円
(学生)	事前振替申込	3,000円	3,000円
	当日受付	3,500円	3,500円
非会員	事前振替申込	5,500円	3,000円
	当日受付	6,500円	3,500円

* 郵便局振替口座 日本社会情報学会全国大会事務局
(00140-4-149002)

会員総会開催について

平成15年度・会員総会が、下記の通り開催されます。

正会員の方々には、既に、別途ご通知を申し上げますが、是非ご参加の上、本学会事業計画等にご助言・ご提言を戴きたくお願い申し上げます。

なお、今回は、新会長・役員承認、評議員規則改定等々の重要な議事がありますので、万障お繰り合わせのうえ、ご出席を重ねてお願い申し上げます。

[開催期日] 平成15年10月10日(金) 16:10~17:00

[会場] 東京工科大学 片柳研究所棟 地下1階 B01 * 全国大会会場

[議事] 平成15年度(事業報告、収支決算報告)

平成16年度(事業計画案、収支予算案)

新会長・新役員承認、他

☆ 次期理事選出結果報告 ☆

【次期(任期:平成16~17年度)理事選出投票結果】
 平成15年5月21日より6月20日に行われた理事選出投票の開票結果を報告致します
 平成15年7月1日 理事選挙管理委員会 委員長 福田 豊
 <平成15年6月27日開催選挙管理委員会にて開票>

得票数	順位	氏名	所属機関・部門	承諾可否
81	1	清原 慶子	三鷹市長	承諾
56	2	太田 敏澄	電気通信大学大学院情報システム学研究科 教授	承諾
56	2	茶谷 達雄	都市情報システム研究所 所長	承諾
52	4	小林 宏一	東洋大学社会学部メディアコミュニケーション学科 教授	承諾
52	4	島田 達巳	摂南大学 経営情報学部 学部長・教授	承諾
50	6	須藤 修	東京大学社会情報研究科 教授	承諾
49	7	廣川 聡美	横須賀市企画調整部情報政策課 担当部長	* 辞退
46	8	根本 敏則	一橋大学大学院商学研究科 教授	承諾
44	9	遠藤 薫	学習院大学法学部 教授	承諾
44	9	前田 隆正	三鷹市・情報政策コーディネーター	承諾
41	11	潮田 邦夫	(株)エヌ・ティ・ティドコモ 常務取締役 法人営業本部長	承諾
40	12	山森 俊彦	エヌ・ティ・ティ・データリイノベーション(株) 代表取締役社長	承諾
38	13	熊田 禎宣	千葉商科大学政策情報学部 教授	承諾
36	14	石田 亨	京都大学情報学研究科社会情報学専攻 教授	承諾
36	14	辻井 重男	中央大学理工学部 教授	承諾
32	16	戸谷 寿夫	大阪府羽曳野市役所 秘書室 理事	* 辞退
31	17	小菅 敏夫	電気通信大学人間コミュニケーション学科 教授	承諾
29	18	尾関 敬二	練馬区総務部 参事	承諾
29	18	松行 康夫	東洋大学経営学部 教授・経営研究所長	承諾
28	20	富山 慶典	群馬大学社会情報学部 教授	承諾
27	21	大山 永昭	東京工業大学フロンティア創造共同研究センター 教授	承諾
27	21	五藤 寿樹	聖徳大学人文学部 助教授	承諾
27	21	小向 鋭一	東洋オフィスメーション(株) 常務取締役	承諾
26	24	坂野 達郎	東京工業大学大学院社会理工学研究科 助教授	承諾
24	25	田村 紀雄	東京経済大学コミュニケーション学部 教授	承諾
23	26	田中 啓一	日本大学経済学部 教授	承諾
22	27	安本 哲之助	鳥取環境大学情報システム学科 教授	承諾

※1 選挙人 397名、投票者 155名(投票率 39%)、有効投票数 1,281票

※2 上記の得票数・順位により、上位25名(辞退者除く)の会員が、「理事就任承諾書」による承諾をもって選挙による次期理事として確定しました。

【会長推薦理事】 *アイウエ順

清原会長の推薦による次期理事が下記の通り決まりました。

	氏名	所属期間・部門	承諾可否
1	安藤 明之	東京経済大学コミュニケーション学部 教授	承諾
2	和泉 潤	名古屋産業大学環境情報ビジネス学部 教授	承諾
3	河西 宏之	東京工科大学コンピュータサイエンス学部 教授	承諾
4	菊田 道夫	(株)NTTデータ 公共地域ビジネス事業本部 取締役・本部長	承諾
5	小郷 直言	大阪大学大学院経済学研究科 助教授	承諾
6	國領 二郎	慶応義塾大学環境情報学部 教授	承諾
7	財部 忠夫	下関市立大学経済学部 教授	承諾
8	玉井 弘明	東日本電信電話(株) ナショナルビジネス推進部 取締役・部長	承諾
9	富永 英義	早稲田大学国際情報通信研究センター 所長・教授	承諾
10	中嶋 聞多	信州大学人文学部 教授	承諾
11	濱田 純一	東京大学情報学環 教授	承諾
12	氷鉤 揚四郎	筑波大学農林工学系 教授	承諾
13	平林 幹朗	日本社会情報学会・事務局長	承諾
14	廣松 毅	東京大学大学院総合文化研究科・教養学部 教授	承諾
15	福田 豊	電気通信大学人間コミュニケーション学部 教授	承諾

※ 15名の会員が、「理事就任承諾書」による承諾をもって会長推薦による次期理事として確定しました。

※以上の40名の次年度理事による「次年度会長選出投票」が行われており、結果は、10月10日開催会員総会にて報告致します。

理 事 会 報 告

[第 4 回理事会]

- <日 時> 平成15年5月8日(木) 18:00~20:30
- <会 場> ジャパンシステム(株) 第1会議室
- <出 席> 理事 出席 8名+委任 26名 *理事会成立 理事: 2/3=33名以上
太田 敏澄(副会長・議長)、遠藤 薫(副会長・学術委員長)、
福田 豊(企画委員長)、武藤 茂(総務副委員長)、小林 登、茶谷 達雄
前田 隆正、村上 幸栄、五藤 寿樹、平林 幹朗
一瀬 智司(監査人)
財部 忠夫(九州支部長)、坪井 利憲(全国大会)
高橋 亨寿、梅原 寿夫、味水 祐毅
- <議 事> 1. 理事選挙について。
・ 理事候補者推薦投票結果報告。
・ 理事候補者の確定。
・ 今後のスケジュール。
2. 第18回全国大会について。
・ 組織委員会構成、実行委員会構成。
・ 準備状況。
4. 各委員会報告。
5. 他
・ 入退会会員承認 ・ 日本学術委員会(会員推薦等)

[第 5 回理事会]

- <日 時> 平成15年7月1日(火) 17:00~19:00
- <会 場> 東京工科大学 片柳研究所棟15階 第1会議室
- <出 席> 理事 出席 8名+委任 26名 *理事会成立 理事: 2/3=33名以上
太田 敏澄(副会長・議長)、遠藤 薫(副会長・学術委員長)、
福田 豊(企画委員長)、武藤 茂(総務副委員長)、
田村 紀雄、小向 鋭一、五藤 寿樹、平林 幹朗
小郷 直言(関西支部長)、河西 宏之・坪井 利憲(全国大会)
高橋 亨寿、梅原 寿夫、味水 祐毅
- <議 事> 1. 第18回全国大会について。(全国大会実行委員会 河西委員長、坪井副委員長)
議事に先立ち、全国大会の各セッションごとの教室・会場を視察し、確認した。
1) プログラムの決定。
基調講演、特別セッション、研究発表等々の確定状況の報告があり了承した。
2) 開催準備状況について、実施項目・内容の実施予定一覧表にて、確認された。

3) 当日の運営について。

2. 各委員会(総務・企画・学術・表彰)・支部の報告

3. 理事選挙管理委員会

・理事選出投票開票結果報告

4. その他。

・新入退会承認 ・教員公募(電気通信大学要請)

[第6回理事会]

<日時> 平成15年8月28日(木) 17:30 - 19:00

<会場> 電気通信大学 P棟5F 517号室

<出席> 理事 出席 6名+委任 28名 *理事会成立 理事: 2/3=33名以上
太田 敏澄(副会長・議長) 福田 豊(企画委員長) 小菅 敏夫(表彰委員長)

小林 宏一、五藤 寿樹、平林 幹朗

坪井 利憲(全国大会) 梅原 寿夫

<議事>

1. 第18回全国大会について。

開催準備状況、プログラムの確認

当日の運営(会場設営、進行、役割分担)

*次期開催校の決定。

次年度(第19回・2004年)は、電気通信大学を第1候補とする。

地域での開催も考え、2005年に「関西支部」での開催も検討する。

2. 次期理事の確認・承認。

*会長推薦理事の承認

3. 会員総会の議案審議。

・15年度事業報告、収支決算

・16年度事業計画、収支予算

・規則の改正 評議員規則、表彰規則、他

*次回理事会(10/1)に、各常任委員長から提出された上記項目について審議し、総会への提案内容を決める。

4. 平成15年度学会賞の確定。

社会情報システム貢献賞(2件) 大学院学位論文賞(2件) 優秀論文賞(1件)
優秀文献賞(1件)の推薦があり、承認した。

5. 各委員会の報告

6. その他

研究会報告

[第88回定例研究会]

日時 平成15年6月4日(水) 14:00~16:30
会場 電気通信大学大学院情報システム学研究科棟2F215号室(中会議室)
〒182-8585 東京都調布市調布ヶ丘1-5-1

テーマ: 「環境問題への社会情報学的パースペクティブ」

講演1 『環境問題と複合的社会情報モデル』

遠藤 薫(学習院大学法学部教授)

講演2 『環境情報のガバナンス: 監視、情報公開、説明責任』

新川達郎(同志社大学大学院総合政策科学研究科教授)

講演3 『環境政策を選ぶための情報の集約と開示はどうあるべきか?』

~不確実性のもとでの合意形成手法の開発を念頭において~

富山慶典(群馬大学社会情報学部教授)

講演4 『環境問題に対するエージェントアプローチ』

松井啓之(京都大学大学院経済学研究科助教授)

司会: 太田敏澄(電気通信大学大学院情報システム学研究科教授)

[第89回定例研究会]

森ビル株式会社(本学会団体会員)様のご協力により、マルチメディア時代の全く新しい都市機能として誕生した「六本木ヒルズ」において、近未来の生活環境の方向性と課題を検討する研究会を実施致しました。

日時 平成15年7月17日(木) 13:00~16:35
会場 森ビル株式会社 アカデミーヒルズ内 ルーム名: 『ステップ1』
(港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー49階)

[第2回情報政策研究会]

日時 平成15年4月11日(金) 14:00~16:30
会場 ジャパンシステム(株) 会議室
テーマ 「ブロードバンド時代のコンテンツ産業の課題と展望」
経済産業研究所コンサルティングフェロー
岸本 周平 氏(財務省理財局国庫課長)

委員会報告

【総務委員会】

<第2回>

日時 平成15年6月16日(月) 18:00~19:30
場所 ジャパンシステム(株) 2階 第一会議室

[出席者] 武藤副委員長、斎藤委員、坪井委員、前田委員、村上委員、味水委員、平林事務局長

[議事]

1. 学会規則の見直し

評議員規則

- ・総務委員会として、以下の案を提案する。

(第1案) 少人数(全体で10名程度、教育:5名以内、企業:3名以内、行政:3名以内、その他:3名以内)(メンバーは会長、副会長、常任委員長から推薦、理事会承認)

(第2案) 現行修正案(全体で30名程度、大学:所属会員5名以上の大学から各1名、地域:各1名、団体:10名程度)

(第3案) 廃止

- ・その他:年度初期の実施を求める。

会員の提案・意見の反映については、HPの活用を検討する。

理事選出規則

- ・今後、引き続き検討する。

その他

- ・会長代行:代行者順位について、副会長のなかから会長が指定するとし、定款に明記する。
- ・表彰規則:「秋山賞(仮称)」について、定款に明記する。
- ・他団体等からの後援等の承諾手続き:後援、協賛については会長及び関係常任委員長の承諾を必要条件とし、共催については理事会の承諾を必要条件とする。

2. メールによる会員への案内について

- ・理事会、会員総会の委任状:返信メールでの委任状を承認することとする。

<第3回>

1. 開催日時 平成15年9月11日(木) 17時~19時
2. 会場 ジャパンシステム(株) 2階 第一会議室

3. 議事

1) 学会規則の見直し

評議員規則 / 理事選出規則 ・ 表彰規則 「秋山賞(仮称)」の追加。

2) 総会提出議案について。

- ・ 15年度事業報告
- ・ 15年度収支決算
- ・ 16年度事業計画
- ・ 16年度収支予算

3) 事務所移転について。

4) 今後のスケジュールについて。

理事会 / 総務委員会 / 会員総会

* 上記の審議内容を次回理事会に報告及び提案する。

【表彰委員会】

<第2回>

1. 開催日時 平成15年5月28日 18時～19時30分

2. 会場 ジャパンシステム(株) 2階 第二応接室

3. 表彰委員

委員長 小菅 敏夫

功劳選考委員

前田隆正 村上幸栄 北村歳治 尾関敬二 平林幹朗

文献論文選考委員

遠藤薫 小林宏一 廣松毅 廣川聡美 刀川真

* 梅原寿夫(電子文書電子申請推進協議会)

4. 議事

- 1) 「秋山賞(仮称)」の検討。
- 2) 各賞候補者推薦状況について。
- 3) 他

<検討事項：参考>

[1] 「秋山賞(仮称)」について。

1. 「電子文書電子申請推進協議会からの申し入れ」趣旨説明。

* 梅原寿夫(電子文書電子申請推進協議会)

* 確認：5/8理事会にて、詳細を表彰委員会で検討すること。

2. 基金受入の学会規則、法的問題等。

3. 賞の名称。

日本社会情報学会「秋山穰賞」or「秋山賞」

4. 賞の位置づけ

5. 表彰の対象。

既存の賞の対象・分野を包含、統括するもので、個別分野・総合的分野でも、既存の賞を超えて、「社会情報(学)」の進展に、特に、顕著なものを対象とする。

6. 運用について。

基金を設置し、特別会計で経理する。

運用責任者 表彰委員長

* 選考委員会構成

・学会員のほか、外部の関係者

・表彰委員会委員

7. 施行・実施。

次回理事会(7/1)で承認。

平成15年10月10日開催総会で承認 平成16年度より実施。

8. 他

・協議会への回答

* なお、実施要綱等の詳細については、次期理事会、表彰委員会で定める。

[2] 表彰委員会事業について。

今年度の各賞の推薦状況について説明と推薦数。

・予算、表彰方法等

・次年度の表彰項目、内容について。

* 上記の審議内容を次回理事会に報告及び提案する。

今年度、本学会が設立趣旨に賛同し、参加した「横断型基幹科学技術研究団体連合」の吉川弘之会長が、創立にあたって述べられた「巻頭言」を掲載します。なお、横断型基幹科学技術研究団体連合につきましては、ホームページ (<http://www.trafst.jp/index.html>) をご覧ください。

[巻頭言 横断の歴史的使命]

横断型基幹科学技術研究団体連合
会長 吉川 弘之
(独立行政法人 産業技術総合研究所 理事長)

日本学術会議は科学者を代表するものであるが、この場合の科学者は70万人いるとされている。それは日本学術会議の210名が選出される母体としての学協会で研究を行っているものの数である。選出は学協会の推薦を基本としているのであるが、それに関与する「登録学術研究団体」は1、400に及ぶ。

70万人が1、400の学会に属しているのだから平均500名であり、それに対応して登録団体となるために、人文社会系で100人、農200人、理300人、工・医500人が最低構成人数として定められている。

日本学術会議の会員となって改めてこの数を見たとき、私は少なからず衝撃を受けた。登録されている学会の数(1997年当時で1221)があまりに多い。そして学会の構成員があまりに少ない。学会というのは、学問領域に対応するものはずであるから、このように多数の「領域」が存在することに驚かされたのである。学問が社会的に機能を求められている時代に、細分化された領域はそれぞれどんな機能を持ち得るのであろうか。とくに現代において学問が必要となる課題は複雑で統合的である。私はそこで、「俯瞰的視点」の重要性を主張せざるを得なかった。

幸い俯瞰的視点という考え方は日本学術会議で受け入れられ、一般社会でも広く使われるようになった。しかし、この視点をどのように作り出すかについては、未だ十分な方法があるわけではない。この時期に、計測自動制御学会などが中心となって「横断型基幹科学」を提案したことはまことに時宜を得たものであり、大きな発展が期待される。

ところで学会は何故このように細分化されるのであろうか。会員数が数百人では、そこでの関心事は特定の研究課題か、一つの学説なのではないかと考えられる。学問領域というのは、それ以上抽象化されると意味を失うまで十分抽象化された概念によって、できるだけ多くの個別事象を包含し、しかも抽象化によってそれらの事象が共通の方法で取り扱われるようになったものであり、包含される個別事象が多ければ多いほど、その領域の価値が高い。従って、抽象化によって起きてしまう意味の喪失の阻止と、包含する事象の数の最大化との均衡において領域は辛うじて成立するものはずである。1、400の学会が、その苦しみの中にあるかどうかは別として、細分化の歴史を考えてみよう。

学問のはじまりは分類である、と言われることがある。確かに学問は対象を理解することを一つの条件としているから、異なる対象を区別することはその基本である。そして、その分類の視点によって独自の分類の体系ができ、それは独自の領域と言ってよい。代表的なのはアリストテレスの動植物の分類であるが、視点を明確に定めることによって成功したのがリンネの植物分類学である。

成功というのは、リンネがすべての植物を包含し、分類を厳密に階層化して示すことにより、抽象的な体系を作り得たからである。しかしこの場合、最も抽象的な類は「植物」ということになって意味は空白となってしまい、そこから具体的な植物を生み出すことはできない。

アリストテレスを批判するカッシーラーは、直観による抽象は不毛であるとし、数や空間概念などに導かれてする抽象が現在の学問領域を生むと言う。運動の抽象によって二次方程式を得れば、パラメータの変更によって円や楕円が得られる。円や楕円は、具体的な運動である。

学問領域というのは、前述のように抽象化によって普遍的理解を生む方法を持っているが、その理解の結果、再び具体的なものへ「帰って」行けるかどうかの問題である。カッシーラーの指摘はその意味で重要であるが、彼の例は楽観的過ぎる。多くの学問的研究によって、私たちは具体的なものを

深く理解するようになった。それは非常に多くの法則を手にしたことを意味している。

しかし、これらの法則から必要なものを選び、再び具体的なものへ帰って行く道筋を私たちは知らない。その理由は、カッシーラーが考えていたのは同じ領域へ帰ることだったのだが、実は彼が考えていたよりも遥かに多くの領域が生み出されたのであり、しかも当然のこととして、帰るべき現実とは多くの領域にまたがって存在しているものであり、円や楕円はその意味では現実ではなく、領域内に止まる依然として抽象度の高い要素に過ぎないということになるであろう。科学者たちは長い間このことを考えて来た。たとえば国際科学会議(ICSU)が、既に1931年に学問領域の交流をその最重要な目的として設立されたのである。学問領域の細分化は、避けられない傾向であり、従ってそれに対応する方法を常に案出し続ける必要がある。横断型基幹科学は、その意味で歴史的な使命を持つものと考えらるべきである。

(2003年4月7日受付)

「2004年情報学シンポジウム」口頭発表およびポスター発表論文募集

- ユニバーサルとユビキタス -

本シンポジウムは、ネットワーク化社会における情報の円滑な流通と高度な利用の促進を目的に、1984年以来毎年開催してまいりました。例年、研究・開発者と利用者が交流し、情報・知識の利用に関するアイデアや知見を交換する場として、多くの方々に参加いただいております。本年度も、日本を代表する研究者・技術者を招待して、上記テーマに関する最新の研究開発状況と今後の課題・展望を講演いただくとともに、以下の要領で論文を募集する運びとなりました。

多数のご投稿をお待ちしております。

日 時 平成16年1月15日(木)・16日(金)

会 場 日本学術会議講堂(東京都港区)

共同主催(予定) 日本学術会議 情報学研究連絡委員会、情報工学研究連絡委員会
情報処理学会、国際学術連合 科学技術データ委員会
人工知能学会、日本医学会、日本化学会、日本数学会
日本地理学会、日本物理学会、情報知識学会、日本生物物理学会、
日本ソフトウェア科学会

後援(予定) 科学技術振興事業団、化学情報協会、計測自動制御学会、
国立情報学研究所、情報科学技術協会、情報通信学会、
電子情報通信学会、日本医療情報学会、日本機械学会、
日本金属学会、日本原子力学会、日本材料科学会、
日本材料学会、日本社会情報学会、日本生化学会、
日本電信電話、日本動物学会、日本農学会、
日本分子生物学会、日本分析化学会、日本薬学会

<論文募集要項>

・トピックス

近年の情報処理技術やネットワーク技術の急速な発達に伴い、場所を問わず多様な利用者がコンピュータやネットワークを使用できる環境が整ってきた。分散処理、ユビキタスコンピューティング、個人情報保護、ディスプレイのコンピュータ利用、デジタルデバイドの解消、またWebページのユーザビリティなどが各々の分野で重要な研究対象となっている。このような「どこでも誰でも」コンピュータを有効に利用することができるためには、情報工学をはじめとする理工学、人文科学、社会科学といった分野の枠を越えた研究成果の交流による新たな発展が期待されている。そこで今回のシンポジウムでは、様々な分野で優れた業績を上げている内外の研究者にご講演いただくと共

に、最新の研究成果を発表する論文を多様な分野から募集する。

中心とするトピックは以下の通りであるが、本シンポジウムのテーマに沿った論文であれば下記以外でも構わない。

- (1) どこでも利用できるコンピュータとネットワーク環境を目指す技術分散処理，ユビキタスコンピューティング，モバイルコンピューティング，携帯電話を用いた情報検索，ウェアブルコンピュータ，計算資源の共有，グリッドコンピューティング，キャンパスグリッドなど
- (2) 誰でも利用できるコンピュータとネットワーク環境を目指す技術
ディスアビリティに対する Web インタフェース，高齢者向けの Web インタフェース，ホームラウンドセキュリティ，ユニバーサルデザイン，ネットワークセキュリティ，Web ユーザビリティ，アフォーダンスなど
- (3) 身近にコンピュータが存在する社会に関わる研究
デジタルデハイド，情報リテラシー教育，個人情報保護法案，心の情報処理，高齢者とコンピュータなど

なお、発表内容はシンポジウムの趣旨に沿うものであれば既発表であっても構わない。

[応募方法]

論文の題目と概要(100字以内)、氏名、連絡先、職名を明記して下記へ申し込むこと(発表者に印を記入)。また同等の内容を応募締切までに電子メールでプログラム委員長(赤峯 享 s-akamine@ak.jp.nec.com)に送付すること。

その際、口頭発表およびポスター発表のいずれを希望するか、また、口頭発表が認められない場合ポスター発表として発表することを希望するかどうかについても記述すること。

- ・ スケジュール (1) 応募締切 平成 15 年 10 月 21 日(火)必着
(2) 採否通知 平成 15 年 11 月 5 日(水)までに発送
(3) 最終原稿締切 平成 15 年 11 月 28 日(金)

- ・ 申込/照会先 (社)情報処理学会 シンポジウム係, E-mail: sig@ipsj.or.jp

(郵送の場合) 〒108-0023 東京都港区芝浦 3-16-20 芝浦前川ビル 7F
Tel : 03-5484-3535 Fax : 03-5484-3534

- ・ 参加費(予稿集代として)(予定)
共催学協会員:10,000 円、学生:2,500 円、一般:15,000 円

本シンポジウムに関する最新の情報は下記 URL をご参照ください。

<http://www.ipsj.or.jp/katsudou/sig/sighp/fi/>

< シンポジウム実行委員会 >

情報処理学会 情報学基礎研究会

実行委員長: 原田隆史(慶應義塾大), E-mail: ushi@slis.keio.ac.jp

プログラム委員長: 赤峯 享(NEC), E-mail: s-akamine@ak.jp.nec.com

事務局たより

平成15年度の各種事業も、10月10日・11日開催の全国大会で終わろうとしております。

各会員の皆様のご協力により、日頃、事務局業務へも一方ならずご協力を戴き厚く御礼申し上げます。

§ 会費納入のお願い

今年度の会費をご請求させて頂きましたが、まだ、ご事情により納入戴いていない会員の方々がいらっしゃいます。

特に、過年度の会費が未納の会員の方へ、再度、ご確認の上、ご納入のほどお願い申し上げます。

ご承知のように、本学会の運営は、会費収入で行われております。会費収入が滞りますと、事業運営に多大な影響を及ぼします。

また、今年度は理事選出選挙が行われます。過年度の会費が未納会員は選挙権も失いますのでご注意ください。主旨ご理解の上、重ねてよろしくお願い申し上げます。

通信費削減への協力（再）

各種ご通知・ご案内を封書にてさせて頂いて戴いておりますが、少しでも通信費予算を削減し、より充実した研究会・学会誌等に充当致したく、メールでのご案内を考えております。

主旨ご理解の上、メールでの各種案内が可能な会員の方々のご協力をお願い致します。

ご承諾戴ける会員の方は、事務局へメールにて、「メール承諾」を戴きたくお願い申し上げます。

現在、メールにてのご案内をご承諾戴いている会員は、200名です。

§ 会員皆様からの学会の運営・事業・組織拡充に対するご意見、ご助言を戴きたくお願い申し上げます。 宛先 FAX 03-3795-9911 E-mail jasi@jade.dti.ne.jp